

練馬区立立野小学校まちづくり条例説明会 会議録（要旨）

- 1 日 時 令和7年10月22日（水）午後6時30分～午後8時00分
- 2 場 所 立野小学校 家庭科室
- 3 出席者 15名（近隣住民13名、土地所有者1名、区議1名）

事務局	施設整備第二課	3名
	学校施設課	3名
設計者	株式会社奥野設計	3名

4 配付資料

- ・次第
- ・P.1 事業概要・敷地概要・計画概要・案内図
- ・P.2 配置図
- ・P.3 緑化計画図
- ・P.4 各階平面図(教室レイアウト・動線)
- ・P.5 立面図(校舎棟・プール棟)
- ・P.6 鳥瞰図
- ・P.7 等時間日影図(法規制)
- ・P.8 時刻日影図(法規制)
- ・P.9 等時間日影図(地盤面)
- ・P.10 時刻日影図(地盤面)
- ・P.11 工事ステップ図及び工事工程表
- ・P.12 作業方法・危害防止等
- ・アスベストの確認状況と対応

6 会議の内容

- (1) 開会
- (2) 新校舎の計画、工事スケジュール、危害防止について
(設計者より配布資料をもとに説明)
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

7 質疑応答

近隣住民

平面図の内容説明中

- ・校舎棟の内容の説明は児童や保護者にとって必要だが、近隣住民にとって詳細な説明は不要。
- ・今後3年間に渡り行われる工事中の騒音、振動などにより近隣住民にどのような影響があるのか説明してほしい。アスベストについても気にしている。
- ・最近、仮設校舎工事にあたり、自宅や近隣で家屋調査をしている。家の外と中を見に来ている。
- ・近隣の方も工事の影響について気にしている。

事務局

- ・次第では建物の計画について説明後、危害防止についてご説明することになっている。

西側にお住いの近隣住民

- ・工程表のSTEP1で既存の門がない場所から工事車両が入る計画になっている。その後仮設校舎の出入口になるようだがどのような出入口になるのか。フェンス、樹木があり、車の交通量が多いがどうなるのか。

事務局

- ・東側は既存の校門を利用する。西側はフェンスを撤去し、幅6mの伸縮する工事用ゲートを設ける。誘導員を配置する。

西側にお住まいの近隣住民

- ・校庭の砂塵、枯葉の防止をどうするのか。今も影響があり、学校施設課にお願いしてスプリンクラー、防砂ネットなど設置してもらっているが完全ではない。ネットがあってもどうしても木のほうが高いので入ってきてしまう。新築なのでもっと良い対策ができるのでは。

事務局

- ・校庭は既存と同じダスト舗装とする。ダスト舗装の部分は既存より大きな植栽に囲まれているので既存より改善される。防砂ネットを貼ることを検討しているが場所は検討中。枯れ葉対策については検討する。条例で樹木を植えなければならないが、近隣への影響が偏らないよう樹木の配置を考える。

西側にお住まいの近隣住民

- ・光庭があり魅力的な建物になっていると思う。また、校舎の前の高木は既存の校舎の前にある高木をイメージしているようでよいと思う。
- ・既存の学童クラブはどうなるのか。
- ・防火水槽はなくなってしまうのか。
- ・高木の樹種はどのようなものか。西、南側道路は樹木の影が良い雰囲気だったこともある。道の魅力に配慮してほしい。
- ・植栽部分の地面は土、芝生、人工芝などどのようなもので覆うのか

事務局

- ・学童クラブは校舎内に移転し、既存の学童クラブの建物は他の区立施設の用途で使用するよう検討している。
- ・防火水槽は 250m メッシュの中に他の消防水利があるので足りているので撤去するのみとなる。

設計者

- ・樹種、グラウンドカバーは検討中。高木でも既存より低い木になる。落葉樹、常緑樹は美観と落ち葉を考慮し検討していく。樹木の下は日が当たらないので芝生はできない。土か他のものを検討する。
- ・歩道状空地があるので緑の横を歩けるようになり、かつ緑から距離をとることができるようにある。両側面で環境が良くなると考える。

近隣住民

- ・南西の角は鋭角になっていて見通しが悪く交通上危険な場所である。歩道状空地ができれば歩行者が通行でき安全上改善できるが、隅切り部分をもっと広くし、車が円滑に通行できるようにできないか。
- ・建替えではなく改修ではだめだったのか。
- ・児童数は減っていくのでは。児童数が大きく減少したときどのように建物を活用していくのか
- ・解体、建築工事費はどのくらいかかるのか

事務局

- ・まちづくり条例により中心 3 m、隅切り 3 mを道路とし、それに加えて幅 2 mの歩道状空地を設け、歩車分離でき、退避空間ができるので安全性を確保できると考えている

- ・区内に学校は 98 校あり、半数以上が築 50 年を超えている。練馬区では築 50 年超の建物については長寿命化工事を行うことで 20 年延命させる方針であり、長寿命化工事に適しているか調査している。コンクリート圧縮強度は文科省の基準である 13.5N 超えているか、中性化、鉄筋の状態を調査し判断している。立野小は耐震補強を行っており耐震性能上問題ないが、長寿命化に適さないと判断した。体育館は築 30 数年なので残す。

- ・児童推計によると新校舎が完成する 5 年後も 18 クラスで学級数は変わらない。20 年後は 16 クラスとなっており、極端に減ることはないと考えている。児童数が大きく減少したときの建物の活用方法については検討していない

- ・解体に 5 億、工事に 60 億かかる見込みである。

西側にお住まいの近隣住民

- ・工事時間 8 時からだが工事車両の出入りは 8 時からなのか。4t 車以上の大きな車が何年も通行する。車による影響はどうか。

- ・工事中の埃対策はどうするのか

事務局

- ・工事車両は登下校の時間を避けて出入りする。他の学校の例では杭打機は朝早く入る。その他の車は 8 時または 9 時前後に入る。解体工事、新築工事の施工者が決まったら説明する。

- ・敷地周囲に鋼板製の高さ 3m の仮囲いを建て、建物周囲には足場を建てて養生シートを設置する。解体工事の際は水をまきながら作業を行う。工事の進捗により状況が変わるのでご意見をいただきながら調整する。

事務局

- ・今後中高層条例による戸別訪問を 12 月頃予定している。

- ・配布資料に問い合わせ先を記載しているので、不明点等あればご連絡いただきたい。